

VIEW

節電とコスト削減は違う！

会社は、12月15日付で『事務所棟の節電及びコスト削減について』を貼りだしました。その内容は、12月19日から電力会社からの要請で、空調の温度設定は19℃以下、風量は「弱」トイレの温座、温水機能は停止等としたことの内容です。

寒い時期が来て詰め所内でも暖房の効きが悪く寒いのに、設定温度を19℃以下にするともっと詰め所の温度は下がり、体調を崩す社員が続出するかもしれません。また、トイレでも温座、温水機能を停止することで、冷たい便座、冷水を使用しなければなりません。そこまでして、コスト削減をしなければならないのでしょうか。会社は、社員の体調を壊さないような節電の計画を立てて施行しなければならないはずです。

そもそも節電とコスト削減は全く別でイコールにはならないはずです。本来の節電の意味は現状を維持しながらあるいは現状以上の環境を従来の電力に頼らずに実現するのが目的ではないでしょうか。例えば、詰め所の蛍光灯は、LED電球に取り替えて少ない出力でより明るい照明に切り替えるのが節電対策だといえます。会社の言う節電は、コスト削減が目的のケチケチ運動でしかありません。

会社は、まさしく、リニアの建設費を捻出するために社員に我慢することを強要しているのです。

社員は、寒くて暖房が利かない庫の中で作業を行っているのです。唯一、昼休みに体を休める場所が検修員詰所なのです。その詰め所の温度設定を19℃にすることで寒い詰所になり体は休めません。

会社は、社員のことを考え節電の見直しを行うべきです。LED電球に交換すれば一時にはコストがかかりますが長い目で見れば大きなコストダウンになるはずです。

社員の皆さん！ 体調を崩す前に節電の見直しを求めましょう！！